第４回学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会（協議概要）

１　日　　時　令和６年２月５日(月)　１４：００～１５：３０

２　会　　場　和歌山県自治会館　３０４会議室

３　協議内容

(1)　和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針の活用について

(2)　次年度の取組について

(3)　その他

４　委員による主な意見と事務局の説明　（○＝委員　●＝事務局）

（1）　和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する方針の活用について

○　都市教育長会議で方針について取り上げる。

今後、協議会を設置し、内容や方向性を検討する。学校や保護者へも周知するとともに、首長部局や高等学校、大学や競技団体とも連携を図り、地域連携・地域移行に係る取組の具体の検討を進めることを考えていくべきではないか。

○　校長会で方針を周知し、今後の地域移行について各市町村の考えを持ち寄って協議する。行政と連携を図り、子供たちの不利益にならないように推進する。

○　今後、スポーツ少年団の会議において、方針を共有し、受け入れ団体の一つとして取組を検討する。

○　スポーツ推進委員として、方針を活用し、中学校年代のスポーツ環境の大きな転換期であることを伝える。その中で、各市町村の協議する場において、スポーツ推進委員も参画し、地域に貢献できるようにする。

○　保護者の立場で周知となると、少し難しいと感じるが、子供たちは実際にどのようなことを考えているのか等、子供の意見や保護者の意見を話す場を大切にしながら進めていくことを望む。

○　方針を高等学校にも理解していただき、活動環境を整備できれば有意義だと感じる。

○　校長会の場で方針を周知し、教職員が自覚をもってもらえるよう、各学校へ説明することが大切。

(2)　次年度の取組について

●　年間を通じて各市町村と連絡・相談し、各市町村において、協議を進めていただく。県は、必要に応じて市町村の協議する場の設置や運営に係る助言を行う。

令和６年５月に、紀北・紀南地方において、地方別意見交換会を実施。令和７年２月に、県主催の講演会（研修会）や意見交換会及び県協議会を開催予定。

○　協議会の委員には、様々な立場の方を選定し、学校部活動の地域連携・地域移行を推進していく力になっていただきたい。その中で、運動部と文化部ともに大切にし、学校部活動担当課と社会教育担当課が連携できる体制づくりを進めていくことが必要である。

(3)　その他

○　１月２３日の上富田中学校の事例発表では、学校運営協議会で地域連携・地域移行を進める必要性を伝え、検討を進めている事例があった。今後、学校でも取組の事例として活用してはどうか。

○　総合型地域スポーツクラブ等の受け皿がない地域は、どのように進めていくことがよいのかが今後の課題である。

○　各学校でアンケートを行う際には、生徒、保護者にもアンケートをとることが必要だ。

○　中学校だけではなく、地域で活動する中で、小学生や大人と交流するような活動があってもよい。

○　楽しく活動したいと思う生徒もいれば、トップアスリートを目指すような生徒もいる中で、地域には幅広いニーズに答えられる環境を整える必要がある。

○　１月２３日のかつらぎ町の事例発表では、教育委員会が主体となり、思いをもった大人が進められている。子供たちが、自分のやりたい活動ができるよう、周囲の大人がサポートするためにも、まずは協議する必要性を感じた。

○　学校としても受け身ではなく、自分事としてとらえ、主体的に考えていく必要がある。

○　中学生の考え方も多様であり、「部活動に入部して、体を動かしたい、芸術に触れたいや体をゆっくり休めたい」等を自らが選択し行動している。今後も子供たちが多様な選択肢の中で成長できるよう体制を整えていくことが必要だ。

○　市町村は、スポーツ庁の「地域スポーツクラブ活動クラブアドバイザー制度」を積極的に活用することで、地域連携・地域移行を推進するためのヒントを得る

ことができるのではないか。

● スポーツ庁の「地域スポーツクラブ活動クラブアドバイザー制度」は、市町村の担当者が直接申し込むことができる。県・市町村側の費用負担はない。

学識経験者、行政担当者、スポーツクラブ担当者等の分野から講師を派遣いただける。今後、市町村にも活用を検討いただきたい。

○ 持続可能な体制整備については、今は必要性を感じないと考える方もいると思うが、なぜ、地域連携・地域移行が必要なのかを理解してもらう必要がある。

将来、少子化が更に進み、社会や学校の在り方が変化することが予想される。そのような中でも、生徒のスポーツ・文化芸術活動に取り組む選択肢が少なくならないように、「今、第一歩を進めるときがきている」という危機感をもって進めること。周囲の大人が、将来の子供たちの多様な活動について真剣に考える必要があるのではないか。